保健師
最前線

経験１年半、宮津弁も混じり始めて

宮津市　綱嶋　陽子さん

　岡山県美作市の出身、大阪、京都の学校を出て、昨年春、宮津市に就職した。「高知と宮津から求人があったのですが、故郷に近いここにしました。以前は京都といえば都の華やかなところばかりだと思っていて、こんなところがあるとは知りませんでした」

　故郷に近いか？と言いたいところだが、なにか縁があったのだろう。最初は保健センターに配属され、主に母子を担当したが、今春から現在の介護予防係（宮津市地域包括支援センター）で働いている。介護保険で要支援１、２の人たちの相談に応じて、適当な支援体制を探したり特定高齢者の運動教室を開催したりしている。

　運動教室は市内２ヵ所で週１回、開催し、中心部では１３人の高齢者が参加している。３カ月で１クールになっているが、全身運動などを続けていると回を重ねるにつれて握力など体力向上がわかるという。

「成果がはっきり出てくるとうれしいですね。教室参加を機会に外に出る習慣がつけばいいと思っています」

　学校では健康な人を対象にした保健事業を学んできたので、現在の仕事にとまどいはあるようだが、徐々に仕事にも土地にもなじんできている。わずか１年半の宮津暮らしながら、言葉尻などに宮津弁が混じっているのだ。